

行事	○口にもものを入れたまゝ話さない
○運動会 ○十月のお誕生会	○年少に同じ

十月は気候もよい。夏休みの家庭生活のくずれも取れてこれから十一月にかけて、一番よい時期である。しかし同時に行事も種々であるから、その機その機を利用して、よき習慣をつける事が大切である。九月の案にも記した様に、これはカリキュラムでなく、先生

## 十月の保育所

実りと収穫の時、十月は 自然礼讃と健康増進の月とされるのが日本のしきたりの様です。農家は、何かと取りいれに忙しく、都会人は、秋の自然を満喫して、体を鍛えようと蒼穹を仰ぎ、熱れた木の実を賞玩します。

幼児の生活も亦、之等周囲の環境に、興味を覚えて、都会地では遠足、運動会の喜びを待ち、農山村地域は、栗拾い、茸狩等、野山をわがものと駆けまはる事でしょう。

保育所全体の計画は、きつと、遠足や運動会の事で、きつしりと

としての予定案に過ぎぬのであるから、その環境や子供の状態において適当に変化するようずう性が必要である。出来上つたカリキュラムとしてははるかに不足があるのでその点混同せぬ様に、御参考になれば幸です。

鈴 木 と く

立案されること、思います。

保育所での幼児の生活も、そろそろ実の入る頃です。生活年令も半年過ぎ、集団生活の場も、自分の処としての安定感も得られ、何か、自主的に行動したい気分が、自ら出て来る時期とも思はれます。

楽しく、野山に遊び、遠足をし、運動会をする事が、自然社会の観察となり、共同の目的にむかつて 力をあはせ、奉仕する事で、喜びを感じながら、社会的な生活習慣を養う、よいチャンスであると思えます。

## 生活指導の面から、

三才児（年少組、もう四才になつた方が多いでしょう）は、色々な個人的習慣が、他から云はれないで、自分で気がついて行く様に四月からとりあげて来たものを、もう一度、この月位からあと半年の間、訓練して行きたいと思ひます。

どの年令の幼児にも、食慾増進から、爽りへの感謝も含めて、食事は、よくかんで、粗末にしない様に頂く事を習慣づけましょう。一緒に食事をとりながら、保母も、ゆつくりよく噛むことです。

○道を歩く時の注意

○乗物の中での態度、注意

○きめられた範囲で行動する事を守る

○目的地での食後や、遊びの後の紙屑、その他の始末

○笛がなつたら何をしていてもすぐ集るとかの、或特定の場合の命令服従

命令服従

○年少児を親切にたずける

○年長児の云う事をきく

○リーダー性を發揮させる

○皆で相談して事をきめる習慣をつけ、皆できめた事は、自分はいやでも之を守る

○進んでお手伝いをする習慣（先生に、或は家で。―三才児、四才児を対象）

○年少組のお当番を、計画的にはじめる。

等は、この月に考えられ、又培いやすい生活習慣かと思ひます。

之等の事は、園外保育の時、遠足の時、或は運動会の準備の間中

に、行はれる事です。

道を、大勢で上手に歩くのはなかく、大変な事です。後をふりむいて話しながら歩いたり、立どまつて見ていたり。先頭の保母と、最後につく保母の、呼吸が合はなければなりません。駈け出して間をつめるところで怪我のもとですから「さつさと歩くと追いつけません」と云つて下さい。さつさと歩く練習は、三、四才の歩行の基礎的練習を太鼓等のリズムで、しつかりとつけておくと、楽です。

園外保育地や、遠足地等には必ず、危険地があります。「こゝからこゝまでの間で遊びましょう」と安全地帯を示して、そのきめに従うこと。「だめよ」「いけないのよ」と禁止すると、好奇心と冒険心と反抗心とでなほさら、行きたがつたり、してみたがつたりするでしょう。

団体行動や、集団生活では、命令に絶対服従する習慣もつけておかなければ、安全が失はれたり、他に迷惑をかけて共同生活が不快になることがあります。けれども、生活のあれもこれも絶対命令に従はせると云うのではありません。

近くの園外保育に出かける時は、なるべく、年長、年少共同で、行き、手をつながしてお互の交渉の中に、年少者には親切に、年長者の云うことはきく様に、と云う気持を助長させましょう。

運動会の準備等も、互に話し合つて、色々な事を決めてゆく様にすると、自主的に仕事をこぶ習慣がついて来ます。自分勝手に好きな様にきめたり、いつもく、保母が決めた通りにはかりしてゐるのでは、我まゝになるし、受身な形になつてしまいます。之は、年長児では出来ることです。小さな六人位のグループをつくつて、

順々に、リーダーをさせ、自分達の生活(あそびも、日常生活も含みます)の事を相談させる様にして、よく決つた事は、'保母も、それを尊重する様にする事です'。

保育所の生活がすつかり身についてくると小さい人達は、保母を手伝いたがります。うるさいし、手間取る時もありますが、この奉仕の精神の芽生えを育てましょう。体力の無理のない様に、掃く事、ぶく事、運ぶ事、その他色々やつてあげようとする事を、して貰いましょう。手伝うことの喜びを、どの子も感じられる様にしてあげたいと思います。三才児など、お当番が出来るでしょうか? 食事の時の準備は、大体出来からです、順番に当番することにしたりの事と、どの事とをするか決めたりして、責任をもつて、当番をしおえる様に、しましょう。余り数多くの事をしてもらつては駄目です。

### 健康保育の面から

いやでも、外遊びが多くなる計画の月です。狭い保育室で、何となくざわめいて居るより、庭に、近所の小公園や、社や、寺の境内に、或は野原に、出しましょう。

半裸の遊びを、まだ止めたくありません。寒さにむかうまで皮膚を鍛えましょう。要注意児への細心の心づかいと、午前、午後の休憩と昼寝は前月と同じに、幼児の為に、お考え下さい。

食欲のすゝむ時に、食べ過ぎてお腹をこわさない様に、麩の面で申し上げた、よく噛んで食べる習慣を健康の面からも徹底させて頂き度いと思ひます。

年長児はこの頃から 自分のお便について、保母に連絡するくせ

をつけたいと思ひます。それから、朝食、夕食について、床についた時間、起きた時間等について、母親の手を惑はさず連絡帳に自分をつけることをさせて見て下さい。

日	どんな便	朝にした	
1	○	△	
2			
3	○	○	
4			
5			
6			
7			
8			

大便(朝すると決めて)

朝した時は○

よい便 ○

やわらかい△

下痢 ×

日	同じ	多い	少ない
1	○	◎	
2			△
3			△
4			
5			
6			
7			
8			
9			

食事

いつもと同じ ○

いつもより沢 山 ◎

いつもより少 少 △

い △

等の様にして、食事、排泄、睡眠等に自分で興味をもつ様にして行

きたいと思ひます。

年少、乳児等は、お母さんが、もすこし、こうした事に無頓着でなくする為にも、毎日符号で、吾が子の状態を連絡する様に、しむけると、保母が、その子の健康状態を知る上からも、亦、母親の保健指導の上からも、よい事だと思ひます。

十月末に、肌寒さを少し感ずると、直ぐ、長ズボンをはかせたり長袖のセーターをさせたり、くるんでしまふ事を考えるお母さんが多い様です、保母が、もすこし、保健の知識をはつきりと身につけて、厚着させようとするお母さんの心配をやらせて薄着安心の方向へむけましよう。之はなか／＼難しい事ですが、保母も、遊ぶ事や教える事に夢中になつても、一々の幼児の衣服の調節に注意をむけるのを忘れ勝ちです。

#### 遊びの實施の面から、

園外保育や遠足が單元として取上げられたとして、之を實施する迄に、何かと準備されなければなりません。近い所への園外保育は遠足迄の地ならしともなりません。二人づゝ手をつないで、上手に歩くこと、道を横断すること等、上手になりましよう。

ホールや、お庭で、交通遊びを展開させてもいゝでしよ。交通整理や、電車にのることなど、ごっこ遊びとして続けられるでしよ。何処の幼児達も、「お手々つないで」は大好きです。歌つてあげて、或は弾いてあげて、歩かせましよう。「お日様ニコ／＼日本晴」の遠足の歌や、お散歩の歌等、よろこんで歩きます。

先に、この計画そのものが、自然、社会觀察だと言ひましたが、何も、一つ一つ、発見して上げたり、注意をむけさせたり、説明し

てあげたりが幼児の觀察ではないと思ひます。見たものにふれ、つかまえた物で遊び、感じた事を言葉で云い表す事がよいと思ひます。自分から注意し、発見し、疑問をもつ様にしむけてあげましよう。

採集や、話し合いや、童話に發展して行く事もありましよう。

遠足は、年少組にも適する所、一日の行程が、幼児に無理でない所を撰びましよう。大人の楽しみ本位でなく、あくまで、四、五才児本位の遠足であるべきです。

遠足の連絡をするお手紙を入れる封筒は、製作にもなります。自由、色々な型の封筒が出来上り、嬉しい便りを入れて自分から運ぶことましよう。

生活指導の面であげました、車内での公衆道徳は、幼児と共に、母親への嫉でもあり、吾先に、吾が子のみ、の自分本位な愛情の型を、なんとか他の為にと考える様な機会ともなりたいものです。目的地での、食べた後、遊んだ後、屑物をちらかしたま、にしない等もましよう。

遠足がすんだ後は、又一しきり、変つた経験をしたあとの話し合いがあり、乗物の話や歌、秋の野山でみたもの、もみぢや、栗や、小鳥等の歌になつたり、絵を描いたり、乗物の製作（空箱、マッチ箱利用、木工）になつたり、粘土細工にあらはれたりするでしよ。

この時に、なるべく、遠足の時の絵を描きましよう、とか、見たものを拵えましようとか、こちらから要求する形はやめたいと思ひます。或、幼児にとつては、その時の印象が、ずつと後になつてあらはれる時もあるからです、要求された事で、それを表現出来ない

為に、不安を感じ、自信をなくす事があります。体験した事、感じ  
た事を、表現する様、或刺戟を与える事は必要と思ひますが、じか  
に自然にふれ、自然を観、感じる事、それを多くして、体に、心に  
溢れるものを待ちたい様に思ひます。

仕事の都合で、母が一緒に行けなかつた幼児のこゝろは、そつと  
つゝんでおいてあげたいし、当日はなほ一層の父母の愛情と心づか  
いを傾けるべきでしょう。

X X X X X

「赤かつように、白かつように」と、町の村の、小学校のお兄さ  
んお姉さんの運動会の話や練習に刺戟されて、マラソンごつこや、  
かけっこ、リレーレース等、この月に見られる遊びであり、又保育  
所でも、母と子の運動会等計画されましよう。

「赤帽白帽かけっこだ」の歌は、元氣よく続きます。

この運動会は、秋に身心を鍛える為に行はれると思ひますが、種  
々な計画が、幼児自身からおきた興味であり、要求であるといひな  
がら、父母の興味や趣向が、囂の様にはりこんで、幼児のそれとわ  
からぬ中に入り乱れて、幼児の精神的過食、過勞に氣づかずに、保  
母の伎倆のみせ所と、張り切つてしまつた感じをうけることがあり  
ます。

心もつと素朴なものにしたいと思ひます。年長組が中心となります  
が、運動会にどんなことをしたいか、何と何があるか、何をすると  
要るか等、ありつたけの経験をしぼり出して皆で話し合うでしよ  
う。

プログラムの構成には父母の意見が十分に入つて整理される必要

がありましようが、する事は、之迄の遊びを競走化したり、歌と踊  
りや、やさしいフオークダンス等を主とし、来賓や、保護者に見せ  
る為の運動会でなく、幼児の力と、努力と、協力で、自分達がなし  
とげた喜びを、大人が共に喜んであげるものでありたいと思ひま  
す。

運動会の為の種々な製作があります。どんなに不出来でも、幼児  
にとつては得意です。花や月や、山や竊柄の万国旗が出来上るかも  
しれません。それはそれとして、世界の國々の旗に対する興味も湧  
いて来て、模写しようとする意慾まで行くかもしれません。

一等、二等、三等の旗も、紅白や色とりどりの応援旗も皆夫々の  
年令で分担出来ましよう。塗りつぶしの好きな年少児は、絵の具で  
ベタ／＼塗りつぶす旗を、懸命につくるでしよ。鈴割りの中に入  
れる。色紙の小さな切りこみは、乱切りの好きな年少幼児に、或は  
精薄に近い問題児の作業に、時々の製作の層折紙を大切にしまつて  
おいたものを利用させましよう。

呼出し、ならべ方、テープ持ち、道具揃え等、夫々の仕事を分担  
して、父母が、その助手となつて、幼児の湧き出す力の方向を、円  
滑に、目的や方法に添うよう、梶をとつてあげましよう。

立派に整えられた運動会にはならず、運動会ごつこで終るかもし  
れません。けれど、幼児の力相応ですと云う事に重きをおいて、  
考へて行きたいと思ひます。

これは、日々の保育で、自力、自主を重んずる生活指導が、父母  
の周到な心づかいのものになされていれば、出来ない事ではありま  
せん。

### 家庭への連絡と、母の會の行事への参加

遠足、その他で、経済的無理をしない事。他の人の持物を真似して、ねだるまゝに、無理をして買い与える事がない様に。

服装がと、のえられないからと、親のみで、子供の楽しみを中絶させない様に。一緒に参加出来なければ、大丈夫、保母が面倒みますからと、安心させてあげる事が大切です。食料、持ち物等、どの幼児にも差がつかぬ様、こちらで、最低の物を指示しましょう。

下着、その他、常に清潔で、と、のつておれば、そのまゝで、さつぱりと美しい感じをうけるものである事を、事の度に、母親へ、伝えましょう。

無用の厚着を、この頃からさせない様に。

組織された母の會を、どんな形で幼児の行事に参加させたい、でしょうか。物品の寄附や、お金ではなく、母親も共に子供達と楽しむと云う、優しい心やりから出発したいものと思います。紅白玉入れの玉をつくつたり、補つたり、は夜分でも集つて出来ます。

幼児の力では余る部分を、母親同志の奉仕で補う様にして、当日は、外に仿いでいるお母さんも参加出来る様な日を、えらびましょう。仰々しい道具不要の、競技を、お母さん達で考えておいて、プログラムに入れてもらいましょう。

x x x x x

十月の季節や自然は、幼児に想像や、冒険を、勤勞や奉仕や努力の歡びを、そして創造する力を与えるべく用意しています。

この天の賜を、享受すべく、保母も技巧にとらはれない、自由人でありましょう。

(51頁から) 託兒的保育に止めるべきではなく、寧ろ家庭教育と母の愛の行届かざる彼等こそ、よき教師によつて、よき教育が与えられなければならないと思う。十年前に多く行われていたデイ・ナーゼリ (Day Nursery) が、全米を通じて、今日の進歩發展を觀たもので、実に注目すべき現象である。私の參觀した一施設の収容児数は三十五名で、教師は六名と養護教師一名であつた。一教師受持の幼児数は、二才児六名、三才児八名、四才児十名と十二名で、即ち六つのグループに分れてゐた。

三、の加大のナーゼリ・スクールを觀るに大学附屬という特種の施設關係から、高度の理想教育を目標に於いて他のナーゼリ・スクールに見ることの出来ない経費が、両親の負担となつてゐる。私は時間割のみを記述したが、何れこの内容を後日に報告したいと思つてゐる。

☆ ☆ ☆

現今に於けるアメリカのナーゼリ・スクールは、斯の如く進歩し發展しつゝある。教師は殆んど大学出身の教育課程を卒えた専門家であり、私が視察した感想の結論は、結局、わが國として幼児教育の重要性に対する再認識が政府当局、社会、家庭、それらの人々と共に、現職教師にあるということである。幼児教育をして國家の礎石たらしめるならば、即ちこの積極的推進力を持つことが必要である。